

1. 略歴

1997年3月	東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 卒業
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 入学
1999年3月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野修士課程 修了
1999年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 進学
2001年4月	日本学術振興会特別研究員 DC2（東京大学、至2003年3月）
2002年3月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野博士課程 単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 PD（九州大学、至2004年3月）
2004年4月	鹿児島大学法文学部人文学科助教授
2007年4月	鹿児島大学法文学部人文学科准教授
2012年9月	ハワイ大学マノア校歴史学科客員研究員・米国国務省東西センター太平洋諸島開発プログラム 客員研究員（フルブライト奨学金研究員プログラム、至2013年2月）
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教史学専門分野准教授
2019年4月	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻兼任

2. 主な研究活動

a 専門分野

宗教史学・宗教人類学・宗教民俗学・慰霊・死者儀礼の継承、日本と太平洋域の宗教文化

主な研究活動は大きく以下の3つのテーマ群についてである。

(A)戦争や災害による犠牲者に対する態度、(B)現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性、(C)島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触、(D)世俗的空間における宗教性の表出

b 研究課題

具体的な研究課題は以下のとおりである。

(1)「(A) 戦争や災害による犠牲者に対する態度」に関わる研究

遺骨収集・戦地慰霊において、遺族や戦友といった戦死者を取り巻く直接的関係者ばかりではなく、宗教者・旅行者・行政といった第三者がどのように関与するかをめぐる問題と、次世代へどのように継承されようとしているかをめぐる問題について調査・考察を行っている。その際、日本人による遺骨収集や戦地慰霊の状況と米豪や太平洋諸島の状況との国際比較、次世代継承に関する宗教体験の伝承や宗教組織の継承などとの比較、戦地慰霊に関する聖地巡礼との比較を行っている。

(2)「(B) 近現代の地域社会における宗教生活と日常生活の関係性」に関わる研究

九州をおもなフィールドとして、近現代の地域社会のなかで人びとがどのような信仰実践や宗教的行為を行ったかについて、そうした実践を支える日常生活とともに調査・考察している。とりわけ、民俗社会を基盤とした地域が、戦争や公害、自然災害などの歴史的経験からのレジリエンス（回復力）をどのように発揮しているかということについて、博士論文で取り上げた長崎の原爆慰霊を視野に入れながら考察しようとしている。

(3)「(C) 島嶼と半島におけるダイナミックな人的交流と宗教接触」に関わる研究

奄美群島とミクロネシア地域を主な対象としながら、大航海時代以降のヨーロッパ人のグローバルな移動に端を発する人的な交流の活発化のなかで宗教的接触状況が地域の宗教性のあり方にどのような影響を及ぼしているのかについて比較宗教的な理解を目指している。

(4)「(D) 世俗的空間における宗教性の表出」に関わる研究

博物館・美術館における宗教的文物の展示をめぐる社会関係と、世俗的な戦争博物館・平和資料館等における慰霊・追悼の側面の考察を通して、ミュージアムという世俗的空間において、現代人の宗教性がどのように表出しているのか（あるいはしていないのか）を考察しようとしている。

c 概要と自己評価

(1)は博士論文の研究課題の延長上にあるものだが、対象地域の拡大と継承という宗教学的テーマへの深化を図りつつある状況である。2010～12年度に代表を務めた科研費基盤研究と、2012年度に滞在したハワイ大学での研究によって研究内容も研究ネットワークもさらなる展望が開けつつある。2018年度中に単著としてまとめる予定である。

(2)(3)はさまざまな研究プロジェクトへの関わりから徐々に輪郭が浮かびつつある、ポスト博士論文の研究テーマであるが、現状としては単発のモノグラフや翻訳の作業にとどまっている。しかし将来的には九州を窓口としてアジア・太平洋域を視野に入れた日本宗教史の構想につながる研究であるという認識で進めている。

(4)は近年着手したもので、共著の論文集におけるモノグラフを数本刊行予定であるが、2019年度から兼担となった文化資源学との連携によって、今後の積極的な進展をめざしたい。

d 主要業績

(1) 著書

共著、菅豊・北條勝貴編、『パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦』、勉誠出版、2019.11

共著、堀江宗正編、『宗教と社会の戦後史』東京大学出版会、2019.2

共著、大谷栄一・菊地暁・永岡崇編著、『日本宗教史のキーワード―近代主義を超えて』、慶應義塾大学出版会、2018.8

編著、西村明、『いま宗教に向きあう 2 隠される宗教、顕れる宗教』、岩波書店、2018.10

共著、田中雅一・松嶋健編、『トラウマ研究 1 ト라우マを生きる』、京都大学学術出版会、2018.11

(2) 論文

Akira Nishimura, "The Commemoration of the War Dead in Modern Japan," *NUMEN*, 66(2-3), 2019.4

西村明「ローカルな信念世界への接近―宗像巖の水俣論とフィールドワーク」『東京大学宗教学年報』36、2019.3

(3) 解説

西村明、「「宗教からみる戦争」特集企画について」『戦争社会学研究』、3、2019.6

西村明、「旧戦地に残されたもの―特集のねらいと補助線」、『戦争社会学研究』、2、156-160 頁、2018.6

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本宗教学会、理事

国内、戦争社会学研究会、会長、2018.4～2020.4